成約率の高いビデオセールスレターのつくり方

スライド作成から録音・配信まで。CV率を伸ばすために実践したいこと



中小企業にありがちな動画マーケティングの課題

動画SNSや動画編集アプリの普及によって、以前と比べると動画マーケティングの敷居は ぐっと下がりました。ただし、中小企業やスタートアップにはそう簡単にはいかないもの…。

限られる予算とリソース、制作プロセスへの不安などから なかなか一歩を踏み出せないマーケティング担当者も少なくないようです。

カメラや撮影機材を買う 余裕がない…。



出演者は どうやって手配する?

どこで何を 撮ればいい? **動画編集に詳しい** メンバーがいない。



ビデオセールスレター(VSL)とは?

ビデオセールスレターとは名前のとおり、商品の販促やサービスの利用促進を目的とした動画です。

特に決まったフォーマットこそないものの、PowerPointなどのスライドにBGM・ナレーションを加えて作られることが多く、とりわけB2B商材の販促に大きな効果を発揮します。

1本のビデオセールスレターで数千ドルのコンサルティング契約を獲得したマーケターなど成功事例 も少なくありません。

弊社スクールのビデオセールスレター



https://www.autopilotacademy.jp/digital-marketing-flight-school/

AutoPilotAcademy

ビデオセールレターのメリット

撮影の手間がかからない



先述のとおり、ビデオセールスレターはPowerPointなどの スライドショー形式で制作するのが一般的です。

撮影やそれにともなうロケハン、出演者の手配、スケジュール 調整などは必要なく、通常のプロモーション動画と比べると、 コストを大きく抑えて短時間で制作できます。

人の声はゆったりとしたペースで耳に入ってくるうえ、無機質な テキストと比べると親近感を抱きやすいという特性があります。

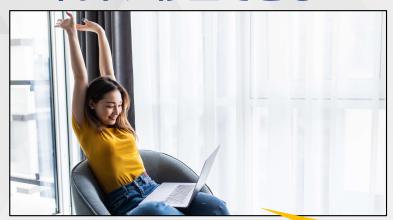
ナレーションによってネットユーザーに嫌われがちな広告色が抑えられ、興味・関心の薄い消費者まで取り込みやすいのも、ビデオセールスレターの大きなメリットです。

聴覚に訴えられる



ビデオセールレターのメリット

簡単に修正できる



通常の動画コンテンツの場合、内容を変更しようとすると、 カットを細かくつなぎ直したり、場合によっては撮影その ものからやり直したりしなければなりません。

一方、ビデオセールスレターならPowerPointなどを開き、 該当のスライドを変更するだけで簡単に修正できます。

少人数の中小・ベンチャー企業でも
 効率的な運用が可能。





▼ 全体の構成を決める

最初のステップは全体の構成です。ビデオセールレターの制作は撮影をともなわず、 絵コンテやシナリオは必要ありません。プレゼン資料を作成する際と同様に見出しと テーマを振り分けていきましょう。

VSLではリード→課題の提示→解決策の提示→クロージングという流れが一般的です。 この流れを基本とし、1スライド・1メッセージの原則に沿って構成を決めておくと、 スライド作成もスムーズに進みます。



プレゼン資料と同様 1スライド・1メッセージが大原則。





▼ スライド&原稿を作成する

構成が決まったらそれにあわせてスライド・原稿を作成します。順番はどちらが先で も構いませんが、ポイントとなるのは派手な装飾や語句を入れないこと。

動きの大きいアニメーションが使われていたり、扇動的な文言が入っていたりすると、 ナチュラルに訴求できるというビデオセールスレターの特性が失われてしまいます。

スライド・原稿ともに「初対面の方に自社の商品を知っていただく」、「サービスを 紹介させていただく」といったスタンスで作成しましょう。

スライド・原稿で避けるべき表現

- **X** 商品画像のフェードイン、ズームアップ
- ★ 膨張色を多用したフォント
- 🗙 扇動的な文言(ex.衝撃、自己責任で、など)





▼ ナレーションを入れる

続いてはナレーションの録音です。USBマイクの利用など方法はいくつかありますが 最も手軽なのはプレゼンテーションソフトの録音機能をそのまま利用すること。

PowerPointの場合、メニューの「スライドショー」から「スライドショーの記録」、 もしくは「挿入」→「オーディオ」を選択するとナレーションを録音できます。

読むスピードは300文字/分を目安に。 不自然に大きな声を出したりしないこと。







▼ 配信する

録音が済み仕上がりをチェックしたら早速配信しましょう。ビデオセールスレターは ヘッドラインとCTAボタンで挟み込む形でWebページに埋め込むのが一般的です。

ヘッドラインによって動画の内容がひと目で伝わり、CTAボタンがあることで動画の 再生前後・再生途中問わずコンバージョンを得られやすくなります。



